

Lead

All road lead to future. リード

コミュニケーションペーパー
2012 Spring 春号 ¥0 TAKE FREE

〈特集〉高知ならではの個性を生かして 研究温故知新

あかうし
&
柚子ブリ

高知県では地域の気候や風土、文化に基づき、昔から人々に育まれてきたモノがあります。そうした価値ある資源を新たな切り口で未来へつないでいきたいと思えます。

高知大学に自治寮が!?
嗚呼!南溟寮

のぞいてみよう高知大学の授業!!

〈講義・第二言語習得論〉ラボ通信
〈看護学科 基礎看護学領域〉まなびの時間

高知大学ニュース



高知大学農学部物部キャンパス

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション Event information 2012 Spring 春号



平成24年度学年暦(予定) Campus schedule

高知大学の授業等に関する年間スケジュールです。

4月	4/2(月)	在来生オリエンテーション
	4/3(火)	入学式
	4/4(水)	新入生オリエンテーション
	4/10(火)	1学期授業始
5月	5/1(火)~5/2(水)	臨時休業
8月	8/1(水)~8/7(火)	1学期試験期間
	8/8(水)~8/31(金)	夏季休業
9月	9/1(土)~9/30(日)	特別授業期間
	9/20(木)	秋季修了式
10月	10/1(月)	創立記念日
	10/2(火)	2学期授業始
	10/6(土)~10/7(日)	南風祭
11月	11/3(土)	物部キャンパス1日公開
	11/3(土)~11/4(日)	黒潮祭
12月	12/27(木)~1/6(日)	冬季休業
1月	1/19(土)~1/20(日)	大学入試センター試験
2月	2/1(金)~2/7(木)	2学期試験期間
	2/8(金)~2/28(木)	特別授業期間
3月	3/1(金)~3/31(日)	学年末休業
	3/22(金)	卒業式

オープンキャンパスのお知らせ Open campus 2012



8月4日(土) 人文学部 朝倉キャンパス

10:00~15:00
入試や学生生活の質問に教員・在学生が対応します。●学部・学科紹介●入試相談●在学生による相談コーナー●保護者の方への案内●模擬授業●在学生の話(詳しくは、人文学部ホームページで案内します。)
http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/



8月4日(土) 理理学部 朝倉キャンパス

10:00~15:00
●学部紹介●学部構成と入試概要●わたしの大学生活(先輩の話)●パネル展示と入試相談コーナー
※理学部1・2号館、情報棟、地震観測所、水熱化学実験所(附属施設は自由に見学できます。)



8月5日(日) 教育学部 朝倉キャンパス

10:00~15:00
●学部説明●平成25年度の入学について●学校教育教員養成課程、生涯教育課程のコース紹介●入試相談・生活相談



8月5日(日) 医学部 岡豊キャンパス

13:00~16:00
●医学部説明●入試情報●模擬授業●スキルスラボ実習体験
●研究室見学●教員・在学生への質問コーナー

8月5日(日) 看護学部 岡豊キャンパス

10:00~12:30
●看護学部説明●入試情報●カリキュラム説明●実習室見学・体験●教員・在学生への質問コーナー



8月5日(日) 農学部 物部キャンパス

10:00~15:00
●高知大学農学部の見どころ・学びとは●役に立つ入試情報●コース別企画により各コースの魅力に触れる●在学生による大学生活紹介●パネル展示●キャンパス内施設見学と研究室めぐり●入試・相談コーナー(開始前と終了後に各1時間)

◎企画の内容、開催時間は変更となる場合があります。◎詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載します。(申込方法は6月下旬にホームページに掲載します。)

高知大学のボランティア活動
仲間募集!

高知子ども守り隊 守るんジャー

高知の子どもたちを事件や事故から守るために通学路の巡回パトロールや交通安全指導を行っている「守るんジャー」。平成22年には文部科学省後援の「SYDボランティア奨励賞」を受賞しました。



災害への備えを未来につなぐ 防災すけっと隊

いつ起こってもおかしくないと言われる南海地震。防災すけっと隊では、未来の担い手である子どもたちに注目し、地域に根差した継続的な防災活動の展開を目標に、教育活動を行っています。



お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学広報戦略室

高知大学 検索
http://www.kochi-u.ac.jp/JA/

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学広報誌の 愛称決定!!

たくさんご応募いただいた中から高知大学広報誌の愛称が「Lead リード」に決定いたしました。今後ともよろしく願い申し上げます。



先駆けの意味が込められており、高知大学として地域・研究・教育など様々な分野でリードする存在になる想いから選ばれました。

●応募してくださった皆様誠にありがとうございました!!



「遺伝子型を調べてみると、黒毛和種の脂肪と比べて、オレイン酸などの不飽和脂肪酸の割合が高い個体が多いことがわかっています。これによってのどしが良く、肉が本来持つうま味を感じやすいのです」

味の良さにはちゃんとした根拠があるわけですが、とはいえ、高値で取り引きされるのは黒毛和種。このため、県内の畜産農家では近年、黒毛和種に乗り換えるケースが増えているとか。加えて、高齢化による廃業も多く、土佐あかうしの数は減る一方…。

松川先生が目指すのは、土佐あかうし独自の特性を次代に残すこと。この考えから、「農家が敬遠しがち

世界を驚かす クローンあかうしが誕生する!?

松川先生が率いる研究室の取り組みは、土佐あかうしの未来を左右する重要な意味を持っています。

「黒毛の牛は高値で売れますが、飼育するのが大変です。一方、土佐あかうしは、真夏でも真冬でも放牧できるなど、高知の気候に対する適応性がすごい。車にとると、黒毛の場合、メンテナンスに手間のかかるリースカー。土佐あかうしはハイブリットなエコカーじゃないかな」

「50年前には4万6000頭もいたんですが、いまは2600頭以下」

「遺伝子型を調べてみると、黒毛和種の脂肪と比べて、オレイン酸などの不飽和脂肪酸の割合が高い個体が多いことがわかっています。これによってのどしが良く、肉が本来持つうま味を感じやすいのです」

味の良さにはちゃんとした根拠があるわけですが、とはいえ、高値で取り引きされるのは黒毛和種。このため、県内の畜産農家では近年、黒毛和種に乗り換えるケースが増えているとか。加えて、高齢化による廃業も多く、土佐あかうしの数は減る一方…。

「黒毛の牛は高値で売れますが、飼育するのが大変です。一方、土佐あかうしは、真夏でも真冬でも放牧できるなど、高知の気候に対する適応性がすごい。車にとると、黒毛の場合、メンテナンスに手間のかかるリースカー。土佐あかうしはハイブリットなエコカーじゃないかな」

いまはエコカーが注目される時代。松川先生は使命感を持って、土佐あかうしを残すべく研究を続けます。

「50年前には4万6000頭もいたんですが、いまは2600頭以下」

「遺伝子型を調べてみると、黒毛和種の脂肪と比べて、オレイン酸などの不飽和脂肪酸の割合が高い個体が多いことがわかっています。これによってのどしが良く、肉が本来持つうま味を感じやすいのです」

味の良さにはちゃんとした根拠があるわけですが、とはいえ、高値で取り引きされるのは黒毛和種。このため、県内の畜産農家では近年、黒毛和種に乗り換えるケースが増えているとか。加えて、高齢化による廃業も多く、土佐あかうしの数は減る一方…。

「黒毛の牛は高値で売れますが、飼育するのが大変です。一方、土佐あかうしは、真夏でも真冬でも放牧できるなど、高知の気候に対する適応性がすごい。車にとると、黒毛の場合、メンテナンスに手間のかかるリースカー。土佐あかうしはハイブリットなエコカーじゃないかな」

いまはエコカーが注目される時代。松川先生は使命感を持って、土佐あかうしを残すべく研究を続けます。



総合科学系
 生命環境医学部門
 准教授

まつ かわ かず つく
松川 和嗣

プロフィール
 信州大学繊維学部卒業、博士(工学)。専門は家畜繁殖学、発生学。これまでに馬や羊、黒毛和種などを対象に研究。「研究は趣味みたいなもの」と種やかに笑う。



土佐あかうし



総合科学系 生命環境医学部門
 准教授 **松川 和嗣**

土佐あかうし
 先人の思いが込められた
 美しく愛らしい牛よ、
 いつまでもこの高知に

高知大学発 オンリーワンのあかうし学

高知県の空の玄関口、高知龍馬空港のすぐ近く。離着陸する飛行機を間近に見上げる場所で、牛がのんびり草を食べています。ここは農学部の物産キャンパス内にある放牧場。オレンジ色の美しい牛たちは、高知県の特産牛として知られる土佐あかうしです。

「高知大学は日本で唯一、褐毛の牛を専門に研究している大学です。



キャンパス内で牛を飼育している大学なんて、全国でも珍しいんじゃないでしょうか」

こうやって顔をほころばせるのは、家畜繁殖学を専門とする松川和嗣准教授。高知県で独自に改良されてきた土佐あかうしをテーマに、高知大学だからこそできる研究に取り組んでいます。

年々、減少する土佐あかうしを次代に残したい

現在、高知大学農学部で飼育しているのは70頭余り。種牛とメス牛と一緒に飼い、自然交配によって子牛を誕生させて、出荷も行っています。そのプロセスのすべてが研究対象。一見のどかな雰囲気は漂う放牧場は、じつは日本最先端の土佐あかうし研究施設なのです。

和牛には黒毛和種など4種類あるとのこと。土佐あかうしは高知県にしかない珍しい和牛で、「褐毛和種・高知系」が正式名称。ルーツは明治時代、韓国から渡ってきた農耕用の朝鮮牛。その後時代の流れとともに食肉専用に改良されたといわれています。

「高知の気候に合っていたんでしょね。黒毛の牛は暑さに弱いので、高知ではなかなか飼育できません。褐毛の牛なら、真夏に放牧されても平気なんです」

ユニークなのは、長い年月のなか、



研究室には女子学生が多く和気あいあいとした雰囲気。



土佐人の好みに合わせて、外見をキュートに改良されてきたこと。目の周りや鼻、尾の先、ひづめなどが黒っぽくて、見た目のアクセントになっています。

「土佐金や尾長鶏もそうですが、高知には生き物の外見を可愛らしく改良する独特の文化があるようにですね」と松川先生は興味深そうに話します。

いま和牛の主流になっているのは、サシと呼ばれる細かい脂肪が肉に多い黒毛和種。一方、土佐あかうしはマイナーな存在ながら、味の良さをプロの料理人から高く評価されています。



「当初は市販の柚子果汁をエサに混ぜていました。そのエサで育てたブリを食べてみたところ、たまに柚子の香りがしたわけです。別に狙ったわけではなく、ラッキーでしたね笑」

抗酸化作用も確かに認められたのですが、深田先生は香りのほうに強く興味をひかれ、研究テーマをフレキシブルに変更。いかにしたら、養殖ブリに柚子の香りを効果的につけられるのか、科学的に追求することにしました。

当初と比べると、エサの作り方も進化しました。値の張る果汁ではなく、無農薬で栽培された柚子の皮を混ぜることで、コストも大分抑えられるようになったそうです。ただ、ブリはイワシなどをエサにする肉食の魚。柚子の皮を与えても、食べないような気がしますよ。あま「いや、平気で食べるんですよ。あまりに与えすぎると、肝臓の調子がちよつと悪くなりますが。エサに混ぜ

る量や与える期間を適切にすれば健康に育ちます」

随時、血液検査などをしながらデータを蓄積。柚子がブリの成長を阻害することはない、と結論づけられています。

**次に登場する
 ニューフェイスは
 柚子マダイ**

柚子をエサに入れると、ほかにもメリットがあります。1つは、ブリ独特の臭みを抑えてくれること。このため、魚嫌いの人も食べやすいのだそうです。もう一つのメリット

は、柚子をエサに入れることでブリの身の脂っささがやわらき、さっぱりとした後味になるとのこと。柚子ブリの刺身ならばいつもの刺身より一切れ多く食べられるとか。

ブリに続いて、マダイにも柚子の香りをつけることを研究。水槽では成功しており、いまは生産者が生簀で試験的に取り組んでいるとのこと。

「マダイは身に臭みがないので、少ない量で柚子の香りがつきます。雑食ということもあって、ブリよりもいい結果が出るのではないかと考えています」

数年後、柚子マダイが一気にブレイクしているかもしれません。

「エサの研究は従来、栄養成分の観点からのみ行われてきました。そうではなく、魚の体のなかにある成長ホルモンや内分因子を指標とすれば、より優れたエサを作ることができるようになります」

学問としての基礎研究と、産業に役立てるための応用研究。この2つを両輪として、あるいは効果的にリンクさせながら、深田先生は熱意を持って取り組んでいます。



柚子

**2007年
 市場にデビュー
 評判は上々**



**基礎と応用を
 両輪にして
 個性豊かな研究を**

深田先生いわく、柚子ブリや柚子マダイは「養殖魚の地位向上委員会」としての研究だとか。これとは別に、魚の成長ホルモンに関する基礎研究や、養殖の生産効率を上げるためのエサ作りなど、以前から取り組んでいる「本業の研究」にも力を入れています。



高知が誇る柑橘類が
 養殖魚の鮮度と香りを
 大きく変える

自然科学系 農学部
 准教授 **深田 陽久**

2005年、冬のある日。「魚の体を知ってエサを作る」を研究テーマとする水族学養殖研究室は、研究の一貫としての試食会を開いていました。メンバーが味わっているのは、養殖施設の水槽で数カ月間飼育し、ついさつきさばいたばかりの新鮮なブリの刺身。

味は文句なし。ただ…。何か言いたそうな学生もいますが、「まさか、そんな」と思い直し、黙って食べ続けます。そんなやや緊張した時間が過ぎていくなか、研究室を主宰する深田陽久准教授が、ついに口を開きました。

「…するよね？ 柚子の香り」

学生たちはハッと顔を上げて、や



はりそうだったか、とばかりに力強くうなずきました。

「はい、します」

柚子香る養殖魚、柚子ブリの何ともいえない味わいが、ここに初めて認識されました。

**試食した結果、
 研究テーマを
 方向転換！**

ブリ養殖に使うエサに、昔から高知で盛んに栽培されてきた柚子を

取り入れた柚子ブリ。この新時代の養殖魚は、いったいどのようなして誕生したのでしょうか。深田先生が研究の発端を明かします。

「これまでの養殖は、天然魚の味を目指してきたように思えます。しかし、そうではなく、養殖魚にしかできないこともあるのではないかと、新しい観点から考えたのが始まりです」

エサに何か自然素材を加えて、品質の向上を目指すことは、当時、ほかの地域でも行われていました。深田先生が柚子に着目したのは、その抗酸化作用。ブリは鮮度落ちが速く、血合いの色が変わりやすいのが欠点。柚子をブリに食べさせると、酸化を抑えて鮮度が落ちにくいのではないかと考えたのです。高知大学の研究ですから、高知県の地域性を活かしたいという思いもありました。

自然科学系
 農学部
 准教授
深田 陽久

プロフィール
 北海道大学水産学部卒業。博士(水産学)。専門は魚類生理、養魚飼料。持続的な養殖ができることを目標に、日々研究。「高知の暖かい海は養殖に適しています。こうした地方大学の特色を前面に出しながら研究を続けたいですね」

その歴史と涙と汗あり...

嗚呼！南溟寮

ほぼ1世紀にわたって、高知大学の自治寮として学生の生活を支えてきた南溟寮。漏れ聞こえてくる学生たちの生活は、体育会系も脱帽の厳しい上下関係、不思議なルールや日常の暮らし。果たして、その真実の姿とは？かつて南溟寮で生活していた2人のOBと現役寮生に話を聞きました。

入寮当初が最初の試練

南溟寮は大正13年、高知大学の前身である旧制高知高等学校の男子学生寮として誕生しました。場所は、朝食キャンパスのほど近く。1〜6寮までに分かれ、それぞれが役割を分担しながら寮を運営しています。まず、南溟寮の「今」について話すのは、寮全体を統括する「総務」の加治直弥君です。

加治 現在、約170人の学生が共同生活をしていきます。寮の秩序を保つためではありませんが、ルールはいろいろと多いです。特に1年生の時はつらいです。まず、入寮しに行く「委員室面接」というので、



でも寮の友達との結婚式の時などは、誰かから「ストーム、ハンク持参な」と連絡が入って、披露宴で新郎と一緒に踊ります。
二詞 (爆笑)
脈々と受け継がれる掟もあります。
加治 挨拶は厳しいですよ。
木場 そうやね、挨拶しなかっただけで罰則。寮内だけでなく大学でもそうだった。

謎の掟がぞろぞろ



さまざまなルールがある南溟寮。なかでも群を抜いてユニークなのが、「解放」です。新入生は風呂に入るのも食事をするのにも、常に上級生に連れて行ってもらわなければならないシステム。寮のルールと寮生の名前を覚えて、初めて「解放」されて寮内を自由に行動できるようになります。

住めば都、慣れれば天国

流しながら暮らす場所だということ。今でも覚えているのが、例えば食堂で誰かと居合わせた時に「言もしやべらないとすごく怒られた」。

井上 社会に出てから役に立ちそうですね。
加治 入寮して1週間目ぐらいまで、本当に辞めようと思っていました。でも、新入生歓迎コンパがすごく楽しくて、仲の良い仲間もできて、続けてもいいやと思いはじめたんです。

井上 ぼくらの頃は「1年間は絶対辞めない」という誓約書を書かされました。何の法的な根拠もないんですけどね。18歳なんて、そんなことはわからない(笑)。1年目は誓約書のせいで辞められず、あとは慣れちゃったので4年間ずるずると。
木場 ぼくは3年から日章寮に移ることに決まっていたから、それを救いに2人に、なかなか話は尽きないよって..

寮母は見た！

南溟寮を訪れて、思ったよりもきれいだと感じたなら、それは寮母を勤める西本裕美子さんのおかげでしょう。パブリックスペースの清掃を任されています。「仕事は学生たちが学校に行っている昼間やっているので、それほど接する機会はありません」それでも寮内を回る時には学生に気軽に声をかけ、近況を尋ねたりしています。「若い人たちだけでの生活なので、そこそこ不潔だし、脱線したりもするようです。でも、それなりにこなしています。子どもたちに任せて大丈夫、と親御さんには伝えたいですね」



南溟寮 寮母 西本 裕美子さん



旧高知高等学校時代の南溟寮。当時は木造の5寮で構成されていた



食堂の様子▶



昭和48年に現在の南溟寮になる。



南溟寮総務 教育学部3年 加治直弥さん
茨城県出身、20歳。高知大学教育学部3年生。24年1月より総務として、南溟寮を取り仕切る。「共同生活なのでいろいろ大変な所もあるけど、楽しもうと思えばいくらでも楽しめます。寮費も格安だし、入って損はありません！」

南溟寮OB 高知新聞宿毛支局支局長 井上真一さん
京都府出身、29歳。高知大学卒業後、高知新聞に入社。南溟寮をテーマにした連載記事を執筆したこともある。現在、高知新聞宿毛支局支局長。「入寮のとき、役員がパーっと並んで寝ているのを見て、これはあかん、と思いました」

南溟寮OB 高知大学農学部 准教授 木場章範
大阪府出身、44歳。南溟寮に2年生まで在籍後、日章寮に移る。現在は高知大学農学部准教授。「寮の同期と会うと、今でも昔のノリで遊んでしまうから危険なんです」

「EPOC」

ラボ通信

講義・第二言語習得論

教員 今井典子 × 学生 濱口恵多郎さん

今井 濱口君は大学4年生の後期に、私が講義をする第二言語習得論を履修しました。第二言語習得論とは、母語以外の言語はどのように習得・学習されるのかという研究です。濱口君はどうしてこの講義を取ったのですか？

いかがでしたか？
濱口 第二言語を習得するうえで母語が、どのように影響しているのか、また、現在の英語教育に求められている言語活動をより充実させるために、何が必要であるのかなど、多くのことを学びました。

濱口 英語教師を目ざしていたので、人間が母語以外の言語をどのようなメカニズムで習得するのか、第二言語習得に関する研究がどういう状況にあるのかを知りたいと思いました。
今井 濱口君としては講義で学んだ知識を実際の授業で活用しているように、理論と実践を融合させた、より効果的な学習法や指導法を学びたかったのかな。講義を受けてみて

いかがでしたか？
今井 他にも、「習得順序」や「発達順序」に関する研究も取り上げましたね。これらの研究は、これから指導法を考えていくうえで重要な示唆になりますね。例えば、「三単現のS」は習得が遅いとされています。しかし、中学校のカリキュラムでは比較的早い段階で導入されます。指導者がこのことを知っていれば、それに考慮した指導を行うことができますよね。

効果的な英語指導法とは何かを極める



理論を知ることが、効果的な指導法・学習法につながります。

※三単現のS・三人称・単数・現在の動詞接尾辞のS



▲スイス バーゼル市の高等学校の授業風景



▲香港の小学校の授業風景



▲ドイツ パデルボン大学にて

英語を学ぶ意義を伝えることが大切です！

英語がわかる！
そんな授業ができる
教師を目指します！



英語教師として、第二言語習得論の知見を得ておくことはとても有効だと思います。

濱口 講義を受けたことで、教育実習の時の自分の授業には、英語への動機付けに関して改善の余地があることがわかりました。生徒が間違った時のフィードバックの手法にもいろいろあること、また英語を学ぶ意欲をいかに高めるかなど、春から英語教師になるので指導に生かしていきたいと思っています。

今井 私の研究テーマである「タスク」も、指導法を考える上で役に立つと思います。第二言語習得論における「タスク」に関しては様々な定義がありますが、共通する内容をま

とめると、「与えられた課題に対して、学習者が自由な言語表現で目的を遂行する課題解決活動」のことで

す。タスクを柱にした授業計画を日本の英語教育にそのまま持ち込むことは難しいけれど、効果的にタスクを授業に取り入れる方法を研究しています。

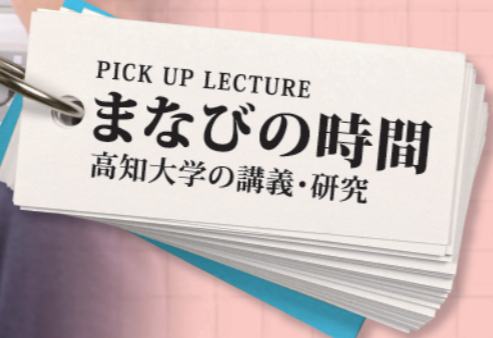
濱口 日本では英語が話せなくても困らないだけに、なかなか動機付けが難しい。英語を学ぶ意義を子どもたちがいかに伝えるかが、求められていると思います。講義で教わったいろいろな効果的な指導理論や方法を取り入れて、わかる喜びが感じられる授業ができるようになります。



PROFILE
人文学部
国際社会コミュニケーション学科 准教授
今井 典子 (写真左)

平成23年10月、高知大学人文学部に着任。県内中学校の英語教諭、高知工業高等専門学校准教授など、教育現場での経験が豊富。ライフワークとして海外の英語教育事情を視察し、授業参観後は、教育委員会、管理職および教員と情報交換を行い、日本の英語教育への示唆を論じている。

濱口恵多郎さん (22歳/写真右)
高知県出身。平成24年、人文学部国際社会コミュニケーション学科卒。この春、中学英語教員に。「大学時代にボランティアで子どもたちと関わることがあって、教師になりたいと思いました。英語が大好きになるような教え方をしたいです。」



すべては患者のために 医学部 看護学科 基礎看護学領域



▲ベッドシーツの交換



教授に聞きました!

PROFILE
医学部 看護学科 基礎看護学 教授
坂本 雅代
仏教大学卒業。大阪教育大学大学院を経て、平成16年より大阪府立大学看護学部助教授。19年より高知大学に教授として着任。専門は基礎看護学。「看護師は生死と向き合わなければならない、厳しいけれどやりがいのある仕事です。」



看護とは何かを考える
看護師は、療養上の世話や診療の補助を行うこと。医療の現場で、欠かすことのできない役割を担います。「看護師の仕事は、患者さんの日常生活を整えること」と説明するのは、看護学科教授の坂本雅代先生。
坂本先生が教えるのは看護のベースとなる考え方や看護を実践する上で基本となる技を学ぶ基礎看護学で、1、2年生が対象。看護って何？、ということからスタートし、患者のおかれた立場をしっかりと理解することの大切さや、体の中で何が起きているのか、その変化を見極める知識の用い方など、基礎となる看護の見つけ方を学びます。
看護の技となる技術の習得も重要なポイント。「患者さんの日常生活を整えるためには、さまざまな技術が必要です。例えば、

ベッドメイキングもそのひとつで、たまたみ方や敷き方にもいろいろなルールがあり、すぐには身につけません。なぜそのようなルールが必要なのかを理論的に教えるとともに、繰り返し練習してもらいます」
人間性を尊重できる 看護師を目指して
ある日の1年生の基礎看護学講義風景。学生たちはグループになり、患者と看護師役に分かれてコミュニケーションの取り方をシミュレーションしていました。患者

に対する問いかけを相手はどう感じるのか、その質問は看護に必要なかなどを、時には先生も交えながらグループで議論します。「大切にしたいのは、根拠となる知識をもち患者さんの気持ちに添える看護をすること。看護師に必要な倫理観や判断力を身につけ、患者さんの人間性を尊重できる看護師になれるよう育てていきたいです」
看護学科では、看護の基礎を学ぶと同時に、1年生の早期から臨床体験実習を実施。1年生の間に、外来患者への付き添いや病棟見学、各自が患者を3日間担当する看護実習などを体験します。高知大学医学部附属病院と連携して、4年間を通して豊富な臨床経験を積むことができます。「臨床実習で医療の現場を体験すると、学生たちは大きく成長します。さらに、モチベーションのアップにも



▲基礎看護学の講義風景

高知大学ニュース

脇口 宏氏、新学長に就任

これからの高知大学を聞く



医学部長を務めていた脇口宏氏が、4月から新学長に就任。これからの高知大学の舵取りについて話を聞きました。

能動的かつ有機的に活動できる大学に

「これからの高知大学の運営方針は？」

大学を取り巻く環境は昨今、非常に厳しいものになっています。それだけに、社会の要請に応えられるような教育体制、組織づくりが重要課題です。大切なのは、「地域の大学」として高知県に寄与することが第一。リーダーの素養を持って社会で活躍でき、国内外、特に高知県をリードしていけるような人材の育成に力を入れていかなければなりません。また、高知大学が持つ知の集積を活かして、学生諸君や教職員が地域との交流を深めて高知の活性化を図るよう、一層の努力が必要で、教育と研究を両輪に、学生諸君と教職員がそれぞれ能動的かつ有機的に活動できる大学の実現を目指すのが私の使命と考えます。

「高知県に貢献するためにどのようなことを考えていますか？」

高知県が持つ地理的条件や特徴などの地域資源を活かし、産学連携を推進すること、そしてそれをアピールしていかなければいけません。すでにスタートしているものとして、高知大学大学院黒潮圏総合科学専攻などで高知県の海をテーマに研究が進められています。また、海洋科学研究における若手研究者を育成するために、イノベータータイプマリンテクノロジ研究者の育成も始まっています。

高知県の特徴ある気候や風土は、本学にとっても大きな武器のひとつ。太平洋に開かれた風土が生み出す開放的な気質や明治維新で活躍した先人たちを生んだ風土は、教育に適した環境であると思います。

「研究について考えていることは？」

大学は教育機関であるとともに、研究機関であることも重要な役割。優れた研究を社会に発信し、国民、市民の方々から評価してもらおうことが大切です。そのためには、今以上に研究環境

を良くする必要があります。また、研究体制についても見直しが必要でしょう。私がモデルにしたいのは、医学部の研究活動拠点である先端医療推進センターです。ここは、種々の異なる分野の研究者と共に学年の異なる学生が研究に参加する「異年次教育」を実施しているのが大きな特徴のひとつとなっています。他学部ではゼミが同様の体系なので、それらを検証しながらより良い研究・教育体制を確立していきたいと思っています。

「学生に向けてメッセージを。」

本学の学生諸君に伝えたいことは、高知大学で学ぶことにプライドを持っていただきたいということ。高知大学に入学できたことは、それまで頑張ってきた証です。同時に、頑張れる環境で育ったことに感謝し、さらに国民の税金によって育まれる教育・研究環境で学べることへの責任も大いに感じてほしいところです。そして、高知大学でのさまざまな出会いを大切に、学生生活を楽しんでほしいと思います。

PROFILE

高知大学 学長
脇口 宏 (わきぐちひろし)

昭和21年7月16日生、愛媛県宇和島市出身。昭和46年、岡山大学医学部卒業後、昭和54年から高知医科大学(現・高知大学医学部)に小児科医として勤務。平成13年、高知医科大学医学部教授、平成20年、高知大学医学部長を経て、現職。学生時代は尺八が趣味で、師範の腕前。「忙しくて、ずっと吹いていませんよ」と笑う。



保育園児が朝倉キャンパスで避難訓練を実施



南海大地震から子供の命を守る

朝倉キャンパス東側に隣接する朝倉中央保育園の園児たち140名が、地震発生後に「大津波警報」が発令されたという想定のもと、高知大学へ避難する訓練を初めて実施しました。園児同士で手をつなぎ列を作り、歩けない子は、おんぶやカートを使って、6階建ての高知大学総合情報センターに移動しました。園の職員や学生ボランティア、大学職員らの誘導により訓練はスムーズに行われました。



高知大学と芸西村 連携協定を締結



平成24年1月27日、安芸郡芸西村と連携事業に関する協定書に学長と村長による調印を行い、協定を締結しました。今後は、環境保全型農業の推進、村民の健康増進、公開講座の開設を連携事業の中心として展開していく予定です。県内自治体との連携を結ぶのは、これで11例目となります。

タイとの親交を深めるよさこい交流事業



東日本大震災へ向けられたタイからの支援に感謝し、洪水で被災したタイ国民への支援を目的に、国民同士が助け合い、友情を深めるため、タイ・バンコクで開催された「がんばろうタイ!」がんばろう日本!ともに友人として「よさこい交流事業に高知大学よさこいチーム「粋恋」の学生19名、職員3名が参加しました。

高知大学研究顕彰制度「大学院生研究奨励賞」受賞者紹介

ソコダラ科魚類の分類学的研究調査

魚類分類学

ソコダラ科魚類の分類学的研究として、世界各地の研究機関に出かけ標本調査を行い、CTスキャンによる内部骨格の観察や魚類特有の感覚器官である側線系の比較検討を精力的に行ったことが評価されました。これらの研究により、ニホンソコダラ属に近縁な新属や新種を多く発見するとともに、研究業績に対して、平成22年度笹川科学研究奨励賞が授与されたことなどが高く評価されました。

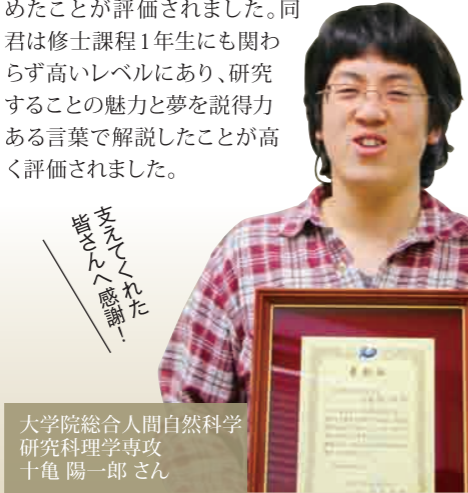


大学院総合人間自然科学研究科 応用自然科学専攻 中山直英 さん

細胞構造の解体・再構築に関するプロセス解明

細胞構造

単細胞生物コルポダ ククルス(Colpoda cucullus)における休眠シスト形成のシグナル伝達系とタンパク質リン酸化の解析を研究。100年以上も前から未解明とされてきた細胞構造の解体・再構築に関するプロセス解明に向けた独創性を発揮し、精力的に成果をおさめたことが評価されました。同君は修士課程1年生にも関わらず高いレベルにあり、研究することの魅力と夢を説得力ある言葉で解説したことが高く評価されました。



大学院総合人間自然科学研究科理学専攻 十亀陽一郎 さん

抗アレルギー剤を探索し、治療研究

アレルギー剤

スイゼンジノリから得られるサクラン、及びアフリカ中部コンゴで民間薬として使用されている地域固有の植物種より抗アレルギー剤を探索。その有効成分の特定に向けた研究、さらにはそれらを用いたアトピー性皮膚炎の治療研究など、幅広い分野で有益な成果を挙げたことが評価されました。本研究内容を通して、同君のトランスレーショナルリサーチ能力の高さを示した点も高く評価されました。



大学院総合人間自然科学研究科医学専攻 ンガツランドウ ロジャー (NGATU NLANDU Roger) さん